



曼珠沙華 マンジュシャゲ

今年の彼岸花は、例年よりはだいぶ遅く咲いたようです。写真は磯原町木皿地内で、10月3日撮影。

市立病院

お産の受け入れ 月20人から26人へ

来春からの

てれしむ木刻は示北の生竹手用

北茨城市立総合病院では産科の分娩受け入れ数について、来年3月から、現在の20人を26人に引き上げる予定です。
市立病院では昨年11月から、常勤医師2人と助産師5人の体制が整い、分娩の受け入れを再開することができました。関係者からは奇跡とも評され、市民をよろこばせました。ただし本紙7月15日号などでもお伝えしたように、人数の制限で、やむなく受け入れを断っていたこともしばしばとい



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田(030-2
43-0468(福田)
42-2462(鈴木))

毎週日曜日発行

お問合せは上記へ

企業債残高は約39億円。高萩、北茨城の両市の負担金は2億8265万円にのぼります。過大な見通しにもとづく公共事業のツケが、

売れ残る工業用水

市の財政に大きな重荷

9月26日に高萩・北茨城広域工業用水道企業団会議が開催され、平成18年度の決算が審議されました。監査委員の意見書によると、「長期の景気低迷の影響等により用水型企業の進出は計画を下回り、工水の契約率は

う実態もありました。医師1人につき、分娩数は年間150件が適正範囲といわれていますが、助産師の増員などをすすめて、受け入れ人数を増やすことにしたものです。それでも希望者のすべてを受け入れることができるかどうか、まだ安心できる状態ではありません。
奈良県での病院のたらい回しによる死産など、産科

医不足による悲惨な事件が後を絶ちません。県北地域の出産の半数以上を担ってきた日製日立総合病院では、来春から産科医師が減るとも伝えられ、「出産難民」を生じかねない懸念されています。
北茨城市立総合病院の産科のより一層の充実と、県北地域における産科医確保は住民の切実な課題となっています。

市議会の定数2減

24名 → 22名

9月議会の最終日に、議員定数を減らす条例が議員提案され、全会一致で可決されました。

この間、市議会では行財政改革特別委員会の中で、議員定数の問題を議論してきました。集約した結果、次期選挙から定数を22名とする条例改正案が提出されました。現在の24名から2名減らすものです。

市の財政に大変な重荷となっているのです。前市長から企業長を引継

いだ豊田市長は「県に対しても財政支援を強く働きかけていきたい」と述べると同時に、「中郷工業団地への企業誘致が次回の企業団会議には報告できると思う」と発言しました。

次回の選挙から

日本共産党市議団は、議員全員協議会の席上、「議員は行政をチェックし、市民の声を議会に反映させる大切な役割があり、一概に議員を減らせばよいというものでは決してない。しかし、今日の市政の現状や財政状況、類似市との比較等々の面から総合的に判断すると、今回の22名はやむをえないと考え賛成する。同時に今

憲法ってなあに？



9月29日、関南町の多目的集会所で、約40人が参加して、憲法の学習会が開かれました。

後の課題として、選挙のたびごとに定数を減らすのではなく、わが市の議会運営上、何名の議員定数が妥当なのか、よく吟味する必要がある」と述べました。

ご相談はお気軽に



市議会議員
鈴木康子
☎42-2462



市議会議員
福田 明
☎43-0468

「北茨城民報」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.jcp-ktib.com/>

編集部では身近な情報をお待ちしています。